

# 2023年度 事業計画書

タンザニア・ポレポレクラブ



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>

(本部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103

# 2023年度 事業計画書



(写真上) 水不足を報じる現地紙 Nipashe。

(写真左) キリマンジャロ山でも水の止まった村で溜池から水を汲む姿が見られた

(新聞、村の写真とも 2023 年 3 月)

## 【海外事業】

### 概要

タンザニアでは新型コロナウイルスの影響もほぼ見られなくなり、2023 年 5 月末時点での直近数週間の新規感染者数はゼロになっています。活動に様々な制約があった 2022 年度と比べ、これは 2023 年度の事業を取り囲む外部環境として明るいニュースといえます。

一方、2 年続きとなる天候不順（年末の小雨季の降雨不足）が各苗畑での育苗に大きな影響を与えているほか、ロシアによるウクライナ侵攻でタンザニアの物価は高騰を続け、これに円安が重なり、資金面で非常に重い足かせとなっています。これらは外部環境のマイナスの側面で、一刻も早く安定、解消に向かってくれることを願っていますが、現状見通しはあまり明るくありません。

現地事業自体も国立公園拡大の問題をはじめ、裁縫教室、養鶏など、それぞれに厳しい現実、課題に直面しています。これまでになく長期間現場での問題対処も必要となっており、外部環境を含め 2023 年度は難しい事業運営を迫られそうです。

しかし困難な時はチャンスでもあります。「環境保全」、「収入向上」、「自立支援」という当会の活動の 3 本柱に 2023 年度も地に足をつけ、ぶれることなく取り組むとともに、新技術の導入や新規苗畑の立ち上げなど、新たな試み、活動にも果敢にチャレンジし、未来への種まきにも怠らず取り組んで参ります。

## 2023 年度の取り組み

### 1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンの森における地域主体による森林保全・管理の実現に向けた取り組み（環境保全）

#### (1) 国会議員、タンザニア森林局長官との協議

2022 年度に実現できなかったキリマンジャロ選出国会議員およびタンザニア森林局（Tanzania Forest Service:TFS）長官との協議実現を引き続き目指す。すでに何度も機会を探っているものの、どうしても実現できずにいる。キリマンジャロ国立公園拡大の問題は、この両者との共同協議なくして解決に導くのは難しいと考えている。

#### (2) 2022 年に州土地局が示したキボショ地区におけるハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）への国立公園拡大の不当性について、村側と協力し同エリアの返還実現を目指す。

#### (3) モシ県の森林沿いの村々による県知事との協議実現を目指す。これも上記(1)と同様、国立公園拡大の問題を解決するための重要な鍵となってくる。ただし実行の是非については村々と協議し慎重に判断することとし、実現を急がない。

#### (4) 人権団体・法と人権センター（Legal and Human Rights Centre：LHRC）と協力し、国立公園拡大の問題解決ないしは山麓住民主体による森林保全活動支援のための共同プロジェクトの形成を図る。

## 2. 植 林（環境保全）

#### (1) キリマンジャロ山麓に暮らす村人たちにとって、里山の森のように機能してきた HMFS の国立公園への取り込みにより、山麓村では日々の生活を支えていくための社会生活林造成に対するニーズが高まっている。このため、薪炭材・飼料の確保、土壌肥沃度の維持、水分保持、蜜源樹植林を目的として、2022 年度に引き続きマルチパーパスツリーによる 6 千本の植林に山麓住民とともに取り組む。同様に、村周縁に広がる荒地緑化を目的として 4 千本の植林に取り組む。植林地はキリマンジャロ東山麓にあるマリंगा村、ロレ村の周辺地。本植林は、国土緑化推進機構「緑の募金」助成金により実施されます。

#### (2) HMFS 内への植林が困難であることから、植林の重点をキリマンジャロ山の裸地尾根での森林再生および半乾燥地緑化に移す。2023 年度はこれを目的としてムウィカ群、キルア郡において計 7 千本の植林に取り組む。

#### (3) 小雨季の降雨の不安定化により山麓での苗木供給能力の強化が求められている。このためキリマンジャロ山麓ムボコム郡に小学校苗畑 1 カ所を新たに立ち上げる。また定期巡回による苗畑運営指導を行う。

#### (4) 苗畑運営の資金面での持続性を確保するため、新たに販売用として果樹（アボカド）の接ぎ木苗の生産を開始する。このための接ぎ木技術指導、グリーンハウス設置、苗畑グループ間での技術交流に取り組む。

#### (5) 「ミツバチの森づくり」では、ミツバチの棲みやすい環境を整備していくため、山麓一帯に広く蜜源樹が植えられている状態を目指す必要がある。様々な条件下で蜜源樹の植林を進めるため、樹種の多様化が求められている。2023 年度は新たな蜜源樹として Calliandra Calothyris を加える。これにより蜜源樹は Calliandra Calothyris（マメ科）、Cordia Abyssinica（ムラサキ科）、Croton Macrostachys（トウダイグサ科）、Croton Megalocarpus（トウダイグサ科）、Grevillea Robusta（ヤマモガシ）の計 5 樹種に広がることになる。



キリマンジャロ山に  
広がる裸地化した  
尾根の様子

### 3. 養 蜂（収入向上）

キリマンジャロ山ではかつて山麓住民の収入の柱であったコーヒー栽培がその地位を失いつつある。養蜂は苦しくなる家計を補うための新たな収入稼得手段を創出するとともに、木を切ることが収入になるのではなく、木（蜜源樹）を植え豊かな森を守っていくことが収入に結びついていく取り組みといえる。それは同時に村人たちの植林に対する意欲、モチベーションを支えていくことにも繋がっていく。

#### (1) 養蜂箱の改良

2022 年度に明らかとなった、湿度による材の変形および害虫対策のため養蜂箱の改良に取り組む。とくにタンザニアの森林帯での害虫（スモール・ハイブ・ビートル）による被害は極めて深刻で、現在のトップバータイプ養蜂箱にはこれを防ぐ手立てがない。このため害虫防除のための新たな技術、構造を検討し、養蜂箱に導入する。

#### (2) キャッチボックスの効果確認

2022 年度に完成したキャッチボックスを設置し、新群確保の効果を確認する。群れの確保ができるようになれば、キリマンジャロ山麓における養蜂拡大の可能性を飛躍的に高めることになる。

#### (3) 養蜂グループの拡大

キリマンジャロ山麓マランゲーの養蜂グループと新たに協力を開始する。このためトップバー養蜂箱の支給、技術指導を実施する。また蜜源樹育苗のための苗畑開設の可能性についてグループメンバーと協議、検討する。



完成したキャッチボックス

### 4. 養 鶏（収入向上）

養鶏は養蜂と同様、村人たちの家計を補完し、生活の安定を図っていくため導入を目指している。現地で一般的な放し飼いではなく、鶏舎・平飼い・給餌管理の組み合わせによる採卵鶏の養鶏で、現在採算可能性把握の段階にある。

(1) ロシアのウクライナ侵攻に伴う現地飼料価格の急騰により、国内在来種による養鶏で採算ベースに乗せるのは困難となっている。さらにタンザニア政府による海外産雛の禁輸措置から、飼料効率の高い品種（Kloirer）の導入も厳しい状況にある。養鶏の採算性を確認するためには同品種での試験が欠かせず、2023 年度は禁輸前に輸入された雛の再生産雛が調達可能であるかを調査する。

(2) 2023 年度中に Kloirer 種の調達が可能となった場合、30 羽程度の規模で試験養鶏を実施する。



調達を目指す Kloirer 種

## 5. 改良カマド（生活改善）

タンザニアで森林減少を招く最大の要因となっているのは、日々の煮炊きに用いられる薪炭材としての消費である。現地で一般的な三ツ石カマドを燃焼効率の良い改良カマドに置き換えることで、薪炭材消費を6割以上削減することができる。植林は直接「緑を増やす」取り組みであるが、改良カマドの普及は「緑を減らさない」ための取り組みである。

### (1) 新型改良カマドの普及拡大

キリマンジャロ山麓テマ村において、従来の改良カマドの欠点を改善した新型カマドの普及拡大を図る。2023年度は設置対象村区をマイデニ村区からムウィカ、キマンボニ、テマ、フォイエニの各村区まで拡大する。設置数は最低20基とする。

### (2) 昨年度作成できなかった、各家庭に配布するための正しい改良カマドの使い方を説明した「改良カマド使用マニュアル」を完成する。



タンザニアで一般的な三ツ石カマドによる調理

## 6. 裁縫教室（自立支援）

家庭の事情など、様々な理由で中等教育進学のを絶たれてしまった少女たちの受け皿となり、彼女たちの自活を支援していくために運営している裁縫教室。しかし職業訓練校制度の変更により新入生募集ができなくなっている。また、現地物価の高騰が貧困家庭を直撃しており、学費を払うことも難しい状況が生まれている。2023年度はこうした状況下で、今後裁縫教室が進むべき方向性を見定めることが最大の課題となる。

### (1) 職業訓練校(VETA)からの離脱

これまで裁縫教室は政府職業訓練校の認定校であったが、制度見直しにともなう再認定の結果が1年近く出されず、新入生募集ができない事態となっている。加えて再認定された場合も教師給与の増額、設備の拡充等を示唆されており、実施すれば学費の大幅に上げなければならなくなる。これはただでさえ学費を払えなくなっている貧困家庭を切り捨てることであり、裁縫教室の目的を果たせなくなる。そこで裁縫教室はVETAから離脱することとする。

### (2) 生徒確保の方法

VETAからの離脱で学費の値上げは避けられる一方、国家試験の受験資格を失うことになる。これにより資格が必要とされる公的機関や大店舗などへの就業機会を失うことになる。これまでに比べ就業機会が狭まることは間違いないが、そのうえでどの程度の生徒募集があるかを見極める必要がある。また貧困家庭は学費を払うことが困難となっている現状を踏まえ、2023年度は学費の値下げを行い、国家試験受験資格なし、低い学費という条件下で応募状況を見極めることとする。ただし本来新学期は1月から始まっているが、VETAによる再認定結果を待った結果生徒募集ができずに来ており、2023年度は学期半ばでの募集とならざるを得ず、多数の応募を期待することはできない。

### (3) 教師給与の支援

上記の学費値下げを実行に移すためには、経費の削減が必須である。貧困家庭救済のためにすでに裁縫教室は他校と比べても割安な学費を設定しており、これ以上の経費圧縮は実質的に不可能となっている。そこで2023年度は教師人件費への支援を行い、学費値下げを支えることとする。

### (4) 他団体との協力

タンザニア・ポレポレクラブとして教師人件費を継続的に支援していくことは難しく、貧困家庭の学費支援を行っているタンザニア国内のNGO、教会等に対し、支援への協力を求める。

## 7. 診療所支援（生活改善）

### (1) 医師用住宅建設支援

村への医師の常駐を可能とするため、医師用住宅として残っている一世帯分の建設費支援に引き続き取り組む。ただし支援は建設費の一部とし、基本的に県政府の資金で建設が進められるよう、予算確保に注力する。

### (2) 診療所利用状況データの取得

地域住民による診療所の利用状況を把握する上でデータ取得は欠かせないが、県政府がデータ提供に極めて後ろ向きで、実質的に不可能となりつつある。2023 年度も診療所委員会を通じたデータ取得など引き続き試みるが、見込は薄い。

## 8. 学校への文具支援（教育支援）

植林活動に積極的に取り組んでいるキリマンジャロ山麓の小学校に 2023 年度も文具の支援を実施する。対象校は長く苗畑を運営しているマヌ小学校および 2023 年度に苗畑を開設する予定のオリモ小学校の 2 校とする。

## 【国内事業】

### 1. ニュースレター、現地通信

ニュースレターの年 4 回発行を目指してきたが、現地調査が半年に及ぶようになってきており、実現が厳しくなっている。2023 年度は 2022 年度と同様、ニュースレター 3 回、現地ハガキ通信 2 回の発行、発送の計画とする。

### 2. 現地事業視察、ホームステイ受け入れ

当会の活動、取り組みに現場で接し理解を深めてもらい、またタンザニアの農村やそこに暮らす人々の素顔に触れることを通して、お互いの理解や交流を深める一つの機会としてもらうため、2022 年度に再開した現地事業視察、ホームステイ受け入れを継続実施する。

### 3. 企業との関係づくり

タンザニアでの取り組みに新たな視点や知見、技術を取り入れていくため、当会の活動の 3 本柱である「環境・森林保全」、「生活改善・収入向上」、「自立支援」の関連分野（緑化、養鶏、福祉等）事業に携わる企業ないしはアフリカで事業展開する企業との関係づくりに取り組む。

### 4. インターネットを活用した取り組み

- (1) 現地での事業フォロー、調査が長期に及ぶようになり、日本でのイベントシーズンに重なり出展が難しくなっている。そこで時期を選ばず開催できる Web 会議システム利用による現地活動紹介、活動報告 2023 年度も実施する。
- (2) イベントへの出展は当会の収入機会ともなっていた。収入減を少しでも補うため、2022 年度に着手できなかったインターネット利用による物品販売に取り組む。新ホームページにネット販売のページを実装できないかについても検討することとする。



---

## タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203  
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254  
(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>  
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103

---